

一八八三年五月十三日(日)

ハリバクティ・プラダイニー集会における聖ラーマクリシュナ

聖ラーマクリシュナは、カルカッタ市カンシヤリパラで開かれているハリバクティ・プラダイニー集会をお訪ねになった。ボイシヤク月三十一日、ベンガル暦一二九〇年白分七日目。この月(ボイシヤク月)最後の日。キリスト暦一八八三年五月十三日、日曜日。今日の集会は一年に一度の祭典である。マノハラ・サイーの音頭で讚神歌の歌舞が催されている。(訳註——ハリバクティ・プラダイニーとは、ハリクリシュナへの信仰を与える者、という意味)

舞台ではラーダーの怒り(愛ゆえの怒り)ヤキモチの歌と演技が始まっていた。(訳註——クリシュナが、もう一人の牛飼いの女、チャンドラヴァアリのところに遊びに行ったので、恋人ラーダーが怒っている場面)

——友達が美しいラーダーにこう言っている。

『なんで、そんなに怒っているの？ それじゃ、あんたは、クリシュナの幸福を願わないみたいよ』
ラーダーは答える。

『チャンドラヴァアリのいる森に行ったから怒っているんじゃないわ。でも、どうしてあそこに行く

第19章 ブラフマ協会の会員たちと共に

のかしら？ あの人、彼の世話の仕方も知らないのに！」